「このままやと凍死する」

あの時そう思った

特別インタビュー

インターンシップ生が訊きました！
ホームレス状態から居宅生活に移行するまで

お話を聞かせてくれた人

吉岡さん
路上とネットカフェなどを行ったり来たりする生活をしていた時に、夜回りで出会いました。Homedoorで仕事をしながら、アンドセンターに入居。3月から居宅生活を始めます。

聞き手

仁井田祐毅

関西学院大学

1．どうしてホームレス状態になったのですか？

地方を転々としながら営業の仕事をしてたんやけど、職場でのトラブルとかがあって６０を過ぎてから大阪の西成に行った。手持ち金がなくなってからは、生活保護と年金での生活をしてたかな。でも周囲ともめてしまって、３年くらい前から西成を出て梅田で野宿を始めた。

2．冬の野宿でつらかったことは何ですか？

冬の野宿は「寒さ」が一番つらかった。ビルの警備の人が来るから、横になれる時間は２３時～４時半くらいまで。段ボールを下に敷いて寝袋で寝ようとしたけど、寒くて寒くて全然眠れなかった。「このままやと凍死するわ」って思った。

3．Homedoorの夜回りで声をかけられたときどう思いましたか？

夜回りなんて初めてで、弁当を手渡されたときはびっくりした。でもうれしかった。その時は明日の朝ごはんが手に入ったなと思っただけやった。弁当と一緒にチラシを見て、事務所に行ってみようと思った。あの時は仕事させてもらえるなんて思ってなかったわ。

4．アンドセンターでの半年間の生活はどうでしたか？

路上にいた時とは比べ物にならないくらい良かった。個室で安心して眠れて、家を借りる準備もできた。家を構えられるようになったのは本当にありがたい。

5．ついに３月に引っ越しですね！楽しみにしていることはありますか？

実は昔から絵を描くことが好きで。また絵を描きたいなと思ってる。趣味を楽しめる時間と場所ができるのはうれしい。これからもHomedoorの事務所には顔を出そうと思ってるけどね。最低でも週１で。（笑）

インタビューを終えて

冬の路上生活は「寒さ」と「孤独」との戦いであり、命がけです。そんなときに助けとなるのが周りからの支えです。安心して眠れる環境と、一人一人に合った選択肢を提供することがホームレス状態の方たちには必要なのだとわかりました。そして、ホームレス問題は決して他人事ではなく誰もが直面する可能性のある問題であることも分かりました。一人でも多くの方が、まずは自分事としてこの問題を捉え、関心を持つことが、「誰もが何度でもやり直せる社会」への第一歩だと私は感じました。これからも皆さんに活動を支えていただけると嬉しいです。

冬募金についての詳細はこちらのURLからご覧いただけます

http://www.lp.homedoor.org/donation2018